

鉄コーティング直播栽培の安定生産に向けたポイント！

栽培管理のポイントをしっかりとおさえて、移植並みの収量を確保しましょう。

1 コーティング

- 種子は乾燥籾で4～5kg/10a 準備します。（コシヒカリは3.5～4kg/10a）
- 出芽率を高めるため、15～20℃で3～4日浸種催芽します。水温が10℃以下だと種子の活性化効果がありません。また、発芽種子はコーティングできません。
- 鉄コーティング比（鉄粉の重量÷乾燥種子重量）は0.2～0.5をめやすに行います。
- コーティング後は塊を放置すると高温により種子が死滅します。速やかに苗箱等に広げ放冷と酸化を進めます。
- 1週間して酸化が進んだら苗箱を積み重ね、播種日まで保管します。
- 播種前に種子の発芽率調査をおこないましょう。発芽率が90%以上あれば播種OKです。播種前に調査をしておくことで、万一、失敗した時に、どの段階で発芽率が低下したのかを特定できます。



2 代かき

- 田面の凹凸は植え代前にドライブハローレーキで高所から低所にゆっくり土を引き、±3cm以内を目標にします。ゴルフボールを地上1mからおとし、田面から1/2～1/3潜るくらいにしましょう。
- 代かきは練りすぎないようにします。特に枕地は何度も練らないようにしましょう。

3 播種量

- コシヒカリは乾粍で3.5～4.0kg程度/10aとし、倒伏リスクの低いこしいぶきや多収性品種は5kg程度/10aとしましょう。

4 播種

- 気温が高いほど出芽が早く、揃いもよくなり、5月5日以降に播種をしましょう。

※安全出穂限界までに出穂させるために5月25日頃までには播種を終えましょう。

- 苗立ちの目標は80～100本/㎡（1m間では25～30本）です。
- 播種後ほ場の周囲に溝切機で作溝し、発芽後の排水を促進しましょう。



5 生育に合わせた播種から出芽揃いまでの水管理

- 播種時は十分落水して播種し、播種後浅水で湛水、初期除草剤を散布します。
- その後は1週間位で自然減水させます。田面の高所が見え、発芽が見え始めたら落水し、芽干しを7～10日行います。播種後長期湛水を行うと、酸素不足や藻類により発芽が低下しやすくなります。
- 不完全葉が出揃ったら湛水し、浅水管理を行います。本葉2葉から稚苗並の水管理を行います。
- ヒエは稲より葉齢が0.5～1葉早く進むため、初中期一発剤は適期を逸しないよう散布しましょう。



（JA全農にいがた 担い手・営農支援課）